

### 第3回 校内研修の記録

|   |   |
|---|---|
| 日<br>程  | <p>1 開 会 14:00～</p> <p>2 校長挨拶及び講師紹介</p> <p>3 講話「考え、議論する道徳の授業づくり」 高橋智美指導主事</p> <p>4 質疑・応答</p> <p>5 謝 辞</p> <p>6 閉 会 ～15:30</p>   |
| ね<br>ら<br>い   | <p>来年度から中学校でも「特別の教科 道徳」が実施されるのをふまえ、授業づくりの方法、評価のしかた等実践的な内容で講義していただき、「特別の教科 道徳」の指導方法について理解を深める。</p>   |
| 話<br>し<br>合<br>わ<br>れ<br>た<br>こ<br>と<br>の<br>概<br>要 | <p>1 道徳が教科化された背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国で多発している深刻ないじめ問題への対応、予測困難な社会への対応の意味がある。</li> <li>・道徳が他の教科等に比べ、軽んじられていたことや、登場人物の心情の読み取りに終始していたことなどの反省をふまえ、道徳の時間の量的確保と授業の質的向上を目指す。</li> </ul> <p>2 「特別の教科 道徳」の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが中学校の目標である。</li> <li>・道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるもの、人間としての在り方、生き方の礎となるものである。道徳的価値の理解を図るには、児童生徒一人一人がこれらの理解を自分との関わりでとらえることが重要である。</li> <li>・道徳性を養うには、児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切である。他者と対話したり、協働したりしながら、物事を多面的、多角的に考えることが求められる。</li> </ul> <p>3 授業づくりの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に考えさせたいことを明確にした上で、教材をどのように活用するかを構想する。価値観→児童生徒観→教材観の順で授業づくりをする。</li> <li>・道徳科授業改善のポイントとして、①ねらいとする道徳的価値への方法づけができていたか、②価値理解と同時に人間理解、他者理解を深められる流れになっていたか、③中心発問がねらいに向かうものになっていたか、④中心となる活動は考えを深めたり広げたりする上で有効であったか、⑤週末に自己を振り返る活動があったか、⑥児童生徒が道徳的価値の自覚を深めていく上で工夫された板書になっていたか、等があげられる。</li> </ul> <p>4 評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科では、児童生徒がより多面的、多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、を視点として評価する。</li> <li>・個々の内容項目の達成状況ではなく、気づきや深まり、実践への意欲を評価する。</li> <li>・授業でどのように見取っていくのかを校内で検討し、統一することが必要である。</li> <li>・授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要である。</li> </ul> |
| 感<br>想  | <p>来年度からの道徳の教科化に向けて、教科化の背景、変わることと変わらないこと、授業改善のポイントなど、さまざまな視点から詳しく説明していただいた。特に、授業づくりの流れについては、本校職員がもっとも知りたかったことなので、今後の実践に向けてとても参考になった。(研修主任)</p>  |
| 今<br>後<br>の<br>課<br>題                               | <p>「特別の教科 道徳」が来年度から円滑に実施できるようにするためには、全職員が「特別の教科 道徳」についてよく理解することや、学校として評価のしかた等について共通理解を図ることが必要である。今回の要請訪問で指導いただいたことを、全職員が再度振り返るとともに、年間指導計画や全体計画別葉の作成等、今年度中にしなければならないことを確実にやり、来年度からの実施に備えたい。</p>  |